
物語 どんぐり

稲波 緑風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

物語 どんぐり

【コード】

N0610X

【作者名】

稲波 緑風

【あらすじ】

おばあさんが語る子どもたちへの小さなお話

プロローグ

ふうわりと風が吹きました。夏の風です。でも、暖かくはありません。冷たい湖の上を通ってきたからでしょう。

雪が降り始めたのでしよう。山から吹き下りてくる風が、日に日に冷たくなっていきます。

風にコスモスの花がゆられています。もう最後の花かもしれません。と、どこからか声が聞こえてきます。

やますそ山裾の小さな村の一つの家から、白い煙が出ています。

寒さに耐たえかね、暖炉だんろに火をつけたのでしよう。

暖炉の前には、子どもがおばあさんの話を聞こうと集まってきました。

「さあて、今日はどんな話をしようかね？」

プロローグ（後書き）

短いお話を気の向くままに書いていきたいと思えます。
毎回、語り方が変わるかと思いますが、ご了承ください。

あ

むかしむかし、遠いむかしのことのお話だよ。
ある小さな村にローリエという名のとても歌の上手な子がいたんだよ。

今日はその子のお話をしようね・・・

ローリエの住む村にはね、私たちの住むこの村に伝わるような掟おきてがあっただよ。

そう、「歌の上手な子は決して森の泉に近づいてはいけない。」って掟だ。

・・・どうしてかって？歌の上手な子は妖精に好かれているからね。妖精が集まる泉に近づいたら、妖精にさらわれて二度と戻ってこれなくなってしまうんだよ。

だから、いいかい？決して歌の上手な子を森の泉に近づけてはいけないよ。

それにね、森の泉の近くでは決して歌ってはいけないよ。心を取られてしまうからね。
いいかい？ちゃあんと守るんだよ。

・・・ああ、話がそれってしまったね。

ローリエの村にも、そんな掟があったのさ。でもね、ローリエは歌がとっても上手で、歌うのがとっても好きだったから、いつでもどこでも歌っていたのさ。

村人たちは、ローリエの歌う声を聞いては楽しんでいただけ、心配もしていたのさ。

森に入って行って泉に近づいてしまったら、どうしようってね。

村人がみいんな心配するほど、ローリエは元気な子でもあったのさ。だもんだから、村のほかの子どもが森に入って木の実採りやら薪拾まき

いやらで出かけても、絶対ローリエだけは行かせなかった。それほど、ローリエの歌は村の宝となっていたんだよ。でもね？子どものローリエは、自分だけ行かせてもらえないことがとっても嫌だったし、ほかの子どもからも妬ねたまれていじめられていたんだよ。

だから、ある時ローリエは夜中にこっそり寝床から抜け出して、森へと行ってしまったのさ。

その次の朝、ローリエの家族はローリエの姿がないことに驚いて、村中の人に聞いて回ったんだよ。

「ローリエの姿を見なかったか？」ってね。でも、誰も見ていなかった。そして、村人たちはそう気にもしてなかったんだよ。「ちょっと出かけただけで、夕方前には帰ってくるだろう」って。

ローリエが森に行くことを望んでいたなんて、知っているのは家族ぐらいだったから。

村人たちがみんな、「大丈夫だ」っていうもんだから、家族も少し不安だったけど、帰ってくるだろうって思うことにしたんだね。

でも、ローリエは森に行ったんだ。たった一人で、何も持たずに。今まで、来た事なんて一度もないから、もうあちらこちらを目印も付けずに歩いてしまったんだよ。

ずっと、歩き続けて、疲れてしまったローリエは、村に戻ろうとしたんだ。でも、目印も付けてないし、初めて入ったもんだから、どこから来たのかもさっぱりわかんなくなってしまったんだよ。

だから、ローリエは怖くなってしまったね。じっとしていれば、もしからしたら、朝から森に入ってくるかもしれない村人に会えたかもしれないのに、どんどん歩き続けてしまったんだよ。

そして、とても悪いことに、泉にたどり着いてしまったんだ。

……ローリエはのどが渴いていたから、村の掟なんて忘れて、駆け足で泉に近寄って、水を飲んだのさ。そしたら、どこからとも

なく、歌が聞こえるじゃないか。

ローリエは、歌声を探して周りを見渡すんだけど、その歌は妖精が歌っていたんだ。わかるわけがなかった。でも、歌はとても楽しそうに歌っているんだから、歌がとても好きなローリエは一緒になつて歌ったんだよ。

そしてね、村ではローリエが1日たつても、1週間たつても、帰ってこないもんだから、ローリエが一人で森にいつて、泉に近づいてしまったんだ、と悲しみにひたることになるんだね。

……え？ローリエはどうなったか？

さあそれは、妖精じゃない、ばあちゃんにはわからないねえ。

今日のお話はこれでおしまい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0610x/>

物語 どんぐり

2011年10月9日15時45分発行